

2020年6月28日（日）

主 題：「贖われた者として生きる」

—キリスト者の指針—

テキスト：1ペテロの手紙1章17～21節

はじめに

- ・日本人は一般的に、宗教心に富む民族であると言われていています。日本のどこに行っても、神社仏閣は存在します。その日本人の宗教意識の1つに、「たたか、「バチが当たるのではないか」といった恐れがありま
知れないものを恐れるのです。
- ・昔の人はよく、「バチが当たる」と言いました。それは良方をした時、そう言ったものです。天地創造の神の教えが
た時代、人の基準は良心にありました。
- ・「因果律」という言葉がありますが、原因があり、そして結果が生じるという法則です。 ですから、悪い結果が出た時には、何かの「悪い原因」あると言いました。良い結果が出た時には、何か「良い原因」があると考えました。それは、人の良心に語るものです。ですから、悪い結果が出ると「バチが当たった」と言ったのです。
- ・皆さん！ 聖書の神は、そのような「バチ当たり」をされるお方ではありません。
いいえ、たとえ悪い結果が出るようなことが生じても、それは消して「バチ当たり」ではありません。神の栄光が現れるためと、聖書は教えています。
では、「バチ当たり」ではない、栄光が現れるため、という神はどんな神でしょうか。⇒ 愛の神です。
- ・愛する皆さん。神を恐れるとは、神がどんなに愛に富まれるお方であるかが分かることによって知ることができます。神は恐れ
の神ではなく、愛の神です。聖書は、天と地を造られたお方を「天の父」と呼び、親しく交わることができる
と教えています。親しいからといって、なれなれしくすることではありません。天の父は正しい、義なるお方
で裁きをなさるお方であるからです。
- ・神は「人をそれぞれのわざにしたがって公平にさばかれる方」(1:17) とペテロは書きました。
キリスト者の生活とは、この神の愛を知る生活と言えます。
- ・では、神の愛を知る生活とは、どんな生活でしょうか。 3点。



りを恐れる」と
す。何か得体の

心に反する生き
入っていなかった

大切なポイント

1. 神のさばきを心に留める

1:17 また、人をそれぞれのわざにしたがって公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、この世に寄留している時を、恐れつつ過ごしなさい。

- ・ここでペテロは、神を「父」と呼んでいます。「天の父」、「天のお父さま」と親しく呼んでいます。私たちはイエス・キリストによって救われたことによって、「神の子」とされました。

- ・皆さん。私たちは、天地万物を造られた創造主を、神と呼ぶことが許されているのです。父と子の関係は、現代の破壊された父子関係ではありません。いいえ、父との親密な交わりをもつことができます。父とは、放蕩生活に人生を費やした息子を優しく迎え入れた父です。
- ・少し考えてみてください。私たちは、ふさわしくない者なのに、恵みによって救われました。恵みによって、罪が赦され、神の子とされました。
2コリント人への手紙は次のように語っています。
5:10 私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。
- ・聖書は私たちに、どのように人生を生きたかが問われる時があると教えています。そして神は「人をそれぞれのわざにしたがって公平にさばかれる」とあります。神はえこひいきをされません。私たち人間は、人の外見を見ますが、神はその人の真の姿を見ておられます。人の目には隠れていても、神はすべてをご存じであり、公平な裁きを行われ方です。
- ・さらに17節後半で、「この世に寄留している時を、恐れつつ過ぎなさい。」(1:17)とあります。
- ・今の世の中、人は皆好きなこと主張し、好きかってなことをしています。神は自由を与えてくださいました。しかし、自由には責任が伴います。皆さん。全てを見ている神は、善であれ、悪であれ、公平にさばきをされるお方です。
ですから、神のさばきを心に留める生き方が求められます。次に大切なことは、愛の代価の大きさを知ることです。

2. 愛の代価の大きさを認識する

- ・1:18 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、
1:19 傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。
- ・ペテロがこのように書いた背景には、ユダヤ人としての宗教生活がありました。律法に熱心であったユダヤ人たちがいました。
私たちはユダヤ人ではありませんが、やはり「先祖伝来のむなしい生き方」がありました。日本社会の風俗習慣、仏壇や神棚を、自分で終わらせるわけにはいかず、形式的に守っている人々も少なくありません。
- ・しかし、そこには命がありません。拝んでも、気休めであり、本当に人を救う力はありません。悲しいことに、それは「むなしい生き方」でした。
- ・そのような中から、私たちは贖い出されました。「贖う」とか、「贖い出す」という言葉は、奴隷を解放する時の言葉です。奴隷は贖いの代価を払って、自由にされます。普通の奴隷であれば、銀や金で自由にすることは可能でしょう。
- ・しかし、罪の死の支配から私たちを救うことはできません。銀や金は朽ちる物です。通用するのは、この地上だけで永遠のものではありません。しかし、私たちの贖いは「**傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの尊い血**」によって、実現しました。
- ・この言葉の背景には、出エジプトの時代からユダヤ人が守ってきた「**過越の祭り**」があります。イスラエルの民は、かつてエジプトで奴隷でした。彼らが指導者モーセによって脱出した時のことです。

- ・神は彼らに、傷のない1歳の子羊の血を、自分たちの家の門柱と鴨居に塗るよう命じられました。それは、エジプトの国を打たれる神ご自身が、その血を見て、その家を過ぎ越すためでした（過越しの祭り）。イスラエルの民は、その血によって神のさばきを免れることができました。エジプトの国を無事に脱出し、奴隷状態から解放されたのでした。
- ・ユダヤ人は毎年、この「過越しの祭り」行い、自分たちが救われたことを記念し、感謝します。
- ・しかし、私たちは過越しを祝うことはしません。それは、出エジプトの出来事で予告されていた救い（解放）は、イエス・キリストによって実現したからです。
- ・新約聖書は次のように語っています。へブル人への手紙

9:12 また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。へブル

ですから、私たちは毎年、繰り返し、いけにえを献げる必要はなくなりました。神の子イエス・キリストが十字架で流された尊い血によって、永遠の贖いを成し遂げられたからです。私たちは愛の代価の大きさを認識し、歩むものです。

3. 全ては神にかかっていることを再認識する

1:20 キリストは、世界の基が据えられる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために現れてくださいました。

1:21 あなたがたは、キリストを死者の中からよみがえらせて栄光を与えられた神を、キリストによって信じる者です。ですから、あなたがたの信仰と希望は神にかかっています。

1) まず教えられることは、私たちの救いは、神ご自身による永遠の計画の中で用意されていたことであることです。救い主が来られたことは、一時的な思いつきではありません。神の用意周到なご計画でした。その恵みに、私たちは今あずかっているのです。

- ・神は、私たちがまだ母の体の中にいる時から、すでに知っておられるお方です。そして、現在も、未来もすべて知っておられるお方です。それはあまりに大きなことで、私たちには理解できません。

『例 話』 （北朝鮮に拉致された横田めぐみさんの父横田滋氏）

- ・6月8日（月）横田滋さんの葬儀が、キリスト教会で行われました。

召天式で、「拉致被害者の会」の西岡力（にしおか・つとむ）事務局長は次のように語りました。

- ・私は、滋さんとお目にかかって23年以上が経ちます。滋さん、早紀江さんご夫婦と、日本全国そして米国、韓国などさまざまなところにご一緒させていただきました。その中で、日曜日にあたり、なおかつ少し時間の余裕があるときは早紀江さんと近所の教会に行ったり、ホテルにて二人で聖書を開き祈る時をもつことができました。

- ・そのとき、滋さんはあまり良い顔をされませんでした。

スト教を信じることは、それがなければ悲



「早紀江がキリ

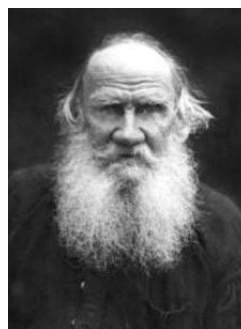
しみのため精神がおかしくなったかも知れないから良かったと思う。しかし、自分は信じない。神がいるならなぜ、愛する娘を突然奪うこのような不条理を許しているのか。どの神さまでも押

んだらめぐみを連れてきてくれるなら拝みます。神は弱い人間が心の安定を図るために拝むものだ。一番苦しいのは北朝鮮にとらわれている娘だ。彼女が苦しんでいるのに、父である自分だけが宗教に頼って、心の安定を得たら申し訳ない」

- ・このような趣旨のことを話されるのを何回か聞いたことがあります。ただの人間にしか過ぎない私には、なぜ、神さまがめぐみさんと横田滋、早紀江ご夫妻にこのような過酷な試練を与え、いまだに解決を与えないことについて、理由を説明できません。わからないことの方が多いです。
- ・しかし、滋さんはキリストを信じて洗礼を受けられました。それは、滋さん本人や早紀江さんなどの努力によるものでもありません。滋さんが良い行いをしてきたことへの報いでもないです。ただ、不思議な神さまの賜物、プレゼントでした。
- ・しかし、聖書は言います。人にはこの世でなすべき良き行いがあらかじめ備えられている。滋さんにとってそれは強いられた「良い行い」だったかもしれません。しかし、その道を勇敢に戦い抜きました。よくやった、もうこれくらいでいいよ、天国で休んでめぐみさんを待ちなさいと神さまに言われて、天国に旅立ちました。
- ・滋さんは戦い続けました。23年間、私もすぐ横でともに戦ってきたのでその勇敢さがよく分かります。安倍晋三総理大臣も〈滋さんとは本当に長い間、めぐみさん始め、拉致被害者の方々の帰国を実現するために、共に戦ってまいりました〉と6月5日に会見で話されました。すぐ横で敵と戦っていた戦友が倒れたかのような感覚です。（つづく）
- ・西岡力事務局長は、このようなスピーチをされました（希望者には全文をお分けできます）。西岡事務局長は、滋氏が洗礼を受けクリスチャンとなられたことに際し、次のように言われました。「滋さんが良い行いをしてきたことへの報いでもないです。ただ、不思議な神さまの賜物、プレゼントでした。人にはこの世でなすべき良き行いがあらかじめ備えられている。滋さんにとってそれは強いられた『良い行い』だったかもしれません。しかし、その道を勇敢に戦い抜きました。」
- ・私も横田滋氏の人生は、神の贈り物、プレゼントであったと思います。全ては、神にかかっています。すべてとは、信仰、希望、愛です。ペテロは「あなたがたの信仰と希望は神にかかっています。」(1:21)と言いました。

2) 神は、救い主「キリストを死者の中からよみがえらせて栄光を与えられた」と言っています。

- ・ある時、ロシアの作家トルストイはこんな質問を受けました。「新しい宗教を始めるには、どうしたら良いと思いますか。」するとトルストイは、こう答えました。「自分を十字架につけ、三日目によみがえることで」
- ・トルストイの言おうとしていたことは、お分かりできないことを、神はしてくださいました。キリストがということです。神ご自身が実現されたのです。それは十奇跡です。
- ・それによって、私たちは救われました。私たちの救い



す。」
よう。私たち人間に実現して下さったと十字架の犠牲と復活のは、ただ神にかかっ

1:21 あなたがたは、キリストを死者の中からよみがえらせて栄光を与えられた神を、キリストによって信じる者です。ですから、あなたがたの信仰と希望は神にかかっています。

- ・信仰は私たちの力、私たちの知恵ではありません。私たちには全くできないことです。私たちの信仰と希望は、神にかかっています。私たちは神によって用意された救いに、ただ神の恵みによってあずかせていただいたのです。
ですから、私たちは神に感謝し、神を拝するのです。

ま と め

主 題：「贖われた者として生きる」

—キリスト者の指針—

- ・今日、私たちは生ける神を信じるキリスト者の指針について、学びました。
神の愛によって救われた私たちは、いったいどのように歩むべきでしょうか。
神の愛を、どのように日々の生活で覚えるべきでしょうか。それには次の3点が大切であることを、教えられました。
1. 神のさばきを心に留める
 2. 愛の代価の大きさを認識する
 3. すべては神にかかっていると認識する（信頼）

* God bless you !